



# 子どもたちの

# 「創造力」で十和田を元気に！

近年、十和田市の子どもたちの「創造力」が高く評価され、独創的な発想は県内でもトップレベルにあります。本特集では、子どもたちの既成概念にとらわれない自由な発想やひらめきが評価された事例の紹介と、地域ぐるみで子どもたちの創造力を伸ばす取り組みをしている十和田市青少年発明クラブを紹介します。

## 世界青少年発明工夫展

### 2017で銅メダルを受賞

第38回未来の科学の夢絵画展で文部科学大臣賞を受賞した伊瀬谷芽生さん（東中・2年）が、世界青少年発明工夫展2017に日本代表（20人）として派遣され、同工夫展において、15の国と地域から出品された159作品の中から、見事銅メダルを受賞しました。

## 2017子どもの「科学の夢」絵画展で多数入賞

今年度、青少年の創造性を育成するために、青森県と青森県発明協会

の主催で行われた2017子どもの「科学の夢」絵画展において、十和田市の子どもたちが、最高賞の「科学の夢大賞」を含む11の賞のうち、9つの賞を獲得しました。



「液体手ぶくろ」  
内城七海さん（三本木小・6年）の作品

## 市青少年発明クラブが全国大会・県大会で躍動

市青少年発明クラブは、「全国青少年チャレンジ創作コンテスト」への4回連続の全国大会出場、「青森県げんねんジュニアロボットコンテスト上級部門」での通算5回の優勝など輝かしい成績を収めています。

当クラブは、創作活動を通して、子どもたちの豊かな発想力と着想を具体化するたくましい構想力を育て、アイデアを生かした創造の喜びを体験させるとともに、夢や希望にあふれた心豊かな人格の形成を図ることを目的に、昭和56年に全国で17番目、東北では初めて開設され、今年度で37年目となるクラブです。

子どもたちの指導には、市発明工夫教育研究会委員があたり、指導方法やねらいは次の4項目となっています。

- ① 青少年が本来持っている創造性を発揮させ、楽しみながら自由に各種の製作を行う。
- ② 主体はあくまでも青少年少女であるため、技術的な助言はするがあまり押し付けた指導はしない。
- ③ 教材は単なる興味・娯楽本位のものではなく、あくまでも科学的なものの方や考え方を育てるものにする。
- ④ 製作は、発想↓助言↓製作↓助言↓修正↓完成の手順で進む。

今年度はドリウム班に36人、エジソン班に19人の子どもたちが参加し、創作活動を行っています。

## 子どもたちの「創造力」は十和田の宝物！

科学を探索し、発明工夫し、知的創造活動を活発化することは、未来を切り開いていく人材の育成につながるものであります。

将来を担う子どもたちの科学する心を育む取り組みを応援し、子どもたちの「創造力」を伸ばし、十和田の元気につなげていきましょう。

## 市青少年発明クラブ

### ロボット競技会を 見てみませんか？

クラブ員が組み立てたロボットで相撲やレースなどの競技が行われます。見学自由となっていますので、未来のエジソンくん・エジソンちゃんを見に行ってみませんか。

とき 1月13日(出) 午前9時～正午

ところ 南公民館

種目 ドリウム班（甲虫ロボ競争・ロボコップ相撲）

エジソン班（オーバーヒルアタックⅢ・ロボ・カーリングⅡ）

その他 全国青少年チャレンジ創作コンテスト参加作品紹介

閩南公民館 ☎4416

## 市青少年発明クラブの活動の様子



①	②	③
	④	⑤
	⑥	⑦
⑧	⑨	⑩

①、②全国青少年チャレンジ創作コンテストに参加するクラブ員 ③コンテスト参加作品の調整をしています ④基盤の図面を見ながら真剣にはんだ付け ⑤木工を指導員に真剣に教わっています ⑥うまくできた紙タワーにご満悦 ⑦指導員の説明に真剣に耳を傾けています ⑧ロボコップ相撲で勝負 ⑨オーバーヒル・アタック（チームで対戦） ⑩甲虫ロボを真剣に操作しています ⑧～⑩は昨年度の様子